



## 通知表の評価・評定について

学期ごとの学習の成果を評価し、記録したものが通知表です。

どういったことが書かれているのか確認してみましょう。今回は、通知表の評価・評定についてご紹介します。

### 評価は3つの観点で決まる！

通知表の書式は学校ごとに異なりますが、学習状況の評価するための観点は学習指導要領で定められています。現在は、以下の観点に基づいて評価されます。

**知識・技能**・・・小テストや定期テストの結果、ノートやワークシートの記録などをもとに評価  
※実技教科では、実技テストや作品なども評価対象に含む

**思考・判断・表現**・・・定期テストでの表現問題・記述問題、授業中の発言、話し合い活動、発表などをもとに評価

**主体的に学習に取り組む態度**・・・学んだことを生活や学習に生かそうとする姿勢、問題解決に向けた取り組み、自己評価、レポートや提出物などをもとに評価

### 評定は各教科・科目の目的の達成状況を示すもの

通知表には、学習目標がどの程度達成されたかを総合的に示す「評定」がつけられます。

ただし、評定がつかない教科もあります。

道徳は、小・中学校で「特別の教科」として扱われていますが、評価は数値化されません。

通知表には、児童・生徒の成長の様子が文章で記述されます。



### 小学校・中学校・高校の通知表の違い

**小学校**・・・小学校の評定は、中学や高校とは異なり、「3段階」で示されます。また、公立中高一貫校を受験する場合は、5・6年生の評定が選考資料として点数化されることがあります。

**中学校**・・・中学校の観点別評価は、生徒の学習状況に応じてA・B・Cの3段階で示されます。その総括として付けられる評定は、5段階の数字で表されます。高校受験では、この評定をもとに算出される「内申点」が重要な資料として扱われます。

**高校**・・・高校では、小学校・中学校と同様に、3つの観点に基づく観点別評価が行われます。大学受験では「学習成績の状況(評定平均値)」が重要で、履修した全科目の評定を平均した数値が推薦系選抜の出願基準などに用いられます。



↓過去の情熱通信はこちらから！

